

大阪薬科大学報

77

2018年(平成30年)
8月1日発行



目次

CONTENTS

カテゴリ	内 容	掲載ページ
挨拶	学長挨拶	03
連載	大阪薬科大学の研究は今③「水に溶けない化合物をナノ領域で複合化させて溶かす研究」	04
	OB・OGの活躍	05
報告	薬剤師国家試験について	06
連載	応援隊長だいやくんの「大薬の足跡を追いかけろ！」	07-09
報告	大学間連携事業の活動状況	10
	三大学医工薬連環科学教育研究機構の活動状況(その14)	
キャンパスニュース	・新入生ガイダンス ・五月祭(新入生歓迎会) ・平成29年度学生表彰	11
	・大阪薬科大学の国際交流	12
	・新入生交流・導入教育 ・大薬祭「bloom」の開催 / 学生相談室だより	13
	・大学院のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの改正	14-15
	・平成30年度科研費採択者一覧 ・研究助成金採択一覧	16
	・大阪薬科大学 研究振興基金助成 ・平成29年度学位授与 ・平成30年度白衣授与式を開催 ・平成29年度実務実習伝達・報告会を開催 ・キッチンカーの出店	17
	平成30年度 大阪薬科大学 生涯学習開講プログラム	18-19
	・オープンキャンパス 6/17報告 ・夏のオープンキャンパス2018	19
	キャリアサポート課だより	20
	連載	クラブ紹介「大阪薬科大学ダンス部 vivid bullet」
ピックアップ	クローズアップYAKUDAI	22
報告	・人事・慶弔	23
挨拶	新任挨拶	24
キャンパスニュース	・トイレの改修工事 ・第6回大阪薬科大学学術講演in東京を開催 ・高槻市主催「けやきの森市民大学」へ講座提供 ・退職記念講義を開催 ・大学の社会貢献活動 ・退職記念パーティーを開催	25
	・平成29年度学位記授与式を挙行 ・平成30年度入学式を挙行 ・中学生の職場体験学習 ・メディアへの掲載・放送等	26
	フロムLibrary / こちら広報室	27
	・地震と豪雨 / 編集後記	
	薬用植物の紹介「ヒロハセネガ」	巻末
	平成30年度 後期行事予定	



大阪薬科大学は、2016(平成28)年度に一般社団法人薬学教育評価機構の認証評価を受け、同機構の評価基準に適合していると認定されました。



本学は公益財団法人大学基準協会による2011(平成23)年度認証評価の結果、2012(平成24)年3月9日付で同協会の定める大学基準に適合していると認定を受けました。

Message from the President

学長 政田 幹夫

2018年度より学科組織が変わり、6年制のみの薬学部となり再スタートを図ったところです。入学生全員が薬剤師国家試験受験資格を取得し、薬学士・薬剤師として大きく様々な分野の薬学領域に羽ばたく人材を教育する機関となりました。大阪薬科大学は大きく変わります。法人合併した大阪医科大学医学部・看護学部の学生達と共に連携教育「医療人マインド」を2018年度入学生より開始し、年次進行で医・薬・看護連携教育を強化していきます。基礎薬学教育センターも薬学教育センターと改名し、基礎科目のみならず薬学専門科目の強化を図る教員の増員(4名から7名、衛生系、薬剤・薬理薬治系)を果たし、学生諸君の勉学向上の一助になることを願っています。前回の学報に記載した、標準修業年限内(6年間)薬剤師国家試験合格率は、今年の第103回は71.9%となりました。また、新卒学生の今回(103回)・前回(102回)を合わせてみると、6年間で卒業した者の国家試験合格率は約93%、7年間で卒業した者(1回留年経験者)は約75%、8年以上で卒業した者(2回以上留年経験者)は約32%であり、留年を繰り返すことなく、教科担当の教員さらには充実した薬学教育センター・臨床薬学教育センターの教員方の協力を得て勉学に励むようにお願いします。

ところで、文部科学省中央教育審議会大学分科会



将来構想部会によると、大学設置基準における単位の考え方からすれば、週48時間の学習が必要になるが、我が国においては平均で約25時間(授業時間20時間+授業外学習時間5時間)の学習に留まっているとの事です。第48回学生生活実態概要報告(2013年)によると、1日の授業外学習は文系学生28分・理系学生48分であると報告されています。また授業に関する1週間の学習時間は日本の学生は0時間が10%、1~5時間が57%、6~10時間が18%、11時間以上が15%、一方、米国の学生は0時間が1%未満、1~5時間が15%、6~10時間が26%、11時間以上が58%と大差がついており、日本の学生の勉強時間の少なさが浮き彫りにされています。学習成果の可視化と情報公開、学生が修得した知識・能力等が分かる情報(単位及び学位の修得状況と成績、卒業論文等の成果物に対する評価、GPA、学修時間等)の把握・提供がいられています。薬学士・薬剤師を目指す学生諸君は日夜勉学に勤しんでいることと思いますが、薬学領域の学問分野の進歩・発展は目覚ましく、理系の中でも薬学に関しては薬学士であり、国家資格の薬剤師をも取得しなければならない学問分野であることを認識し勉学に励んでください。

OB・OGの活躍

ノバルティスファーマ株式会社
プライマリーケア事業部 大阪第三営業所

小林 大祐 さん(平成27年卒)

Q.現在の仕事について

MR(Medical Representative)とは翻訳すると「医薬情報担当者」。病院の医師や薬剤師の方々に、「自社の薬に関する情報を提供する」お仕事です。あくまで売上を上げることが最大の目標とはせず、「薬の品質・有効性・安全性に関する情報を医療従事者の方々に提供する」ことで、患者さん一人一人の治療に最適な処方薬として自社の薬を選んでもらうことが最大の目標であり、結果的に売上に繋げていくお仕事です。

その売上は次の画期的な新薬を創作する研究開発費となります。そのため、「売上と医療貢献」の両者を達成しなければなりません。

情報を提供するにあたり、相手が医師や薬剤師の方々ということもあり、日々の勉強は欠かすことはできません。自社製品、競合品について、病態について、ガイドラインについてなど様々な情報を身に付けていくことが必要です。

また、その情報をいかに先生方に分かりやすく伝えることができるかも問われます。そのため、社員同士のロールプレイングなどを行い、スキルの向上も心がけております。

そして、このお仕事の最大のやりがいは情報提供活動を通じて先生方に自社製品をご使用頂き、その結果、「患者さんの状態が良くなった」というお話を聞くことができることです。それはまさに自分の仕事が「医療に貢献している」ということを実感できる瞬間です。

それにより先生方の信頼を獲得し、自社製品の売り上げが伸びていくことも最大に喜びを味わうことができます。

Q.大学時代の研究室について

生化学研究室に所属し、福永先生の元で「炎症性サイトカインであるインターロイキンについて」研究を行ってまいりました。研究にあたり、1つの結果を出すのにたくさんの行程と何日もの時間を必要としていました。しかし、時にはミスをしてしまうこともあり、すぐに結果が出ないことに憤りを感じてしまう時もありました。

そのような時に福永先生から、「研究というものはずっと結果が出るものではないし、1つ1つの過程も大切にしなければならない」というお言葉を何度もいただきました。

今考えてみると、現在の私の仕事にも同じことが言えるのではないかと考えております。

医療従事者の方々から絶対的な信頼を得るには何度も何度も面会することが必要であり、その1つ1つの面会内容をより有意義にさせるために事前準備も必要となってくるからです。このように内容は違いますが、当時の研究室からは社会人にとって大切なことも学ぶことができました。

Q.大学時代に打ち込んだこと

学園祭最終日に行われ、各クラブが創作ダンスを披露し優勝を争う「薔薇祭」に最も打ち込んでおりました。私はテニスサークルレボリューション(レボ)に所属しており、1年次生から3年次生までの3年間優勝を目標に参加しました。1ヶ月半の準備期間の中で授業終わりに毎日22時頃まで練習をし、精神的にも体力的にも疲弊していく中ではありましたが、チーム一丸となって「優勝」を目標に取り組んでいく姿はまさに青春でした。

3年間全て準優勝で、結局一度も優勝することはできませんでしたが、当時の同級生、先輩、後輩とは熱い絆が生まれました。卒業した今、薔薇祭メンバーに会うと当時の話は毎回出てくる程です。先輩方にお叱りをいただいたこともあれば、同級生同士で言い合いになったことも今となっては良い思い出であり、それがあってこそ今の関係が構築できたのではないかと考えております。

Q.在学生へのメッセージ

就職活動の成功は一流企業や大きな病院や薬局に内定をもらうことではなく、10年後20年後の自分が「ここに就職して本当に良かった」と思えることです。そのために、在学生の方々には就職活動では必死に自分自身と向き合っていただきたいです。

自分が何に対して興味があるのか、何に対して喜びを感じるのか、または強みだけではなく弱みは何なのか、などです。それらを明確にすることができれば、自分自身に最適な職種や就職先を見つけられるはずです。そこに内定をいただくことができれば、それは日々の仕事のモチベーションに繋がり、やりがいも大きく変わり、「仕事が楽しくて仕方ない」と思える自分に出会えるはずです。

また、就職活動の際に自分という人間を振り返りやすくするためにも、まずは目の前のテスト勉強、クラブ活動、研究など、1つ1つを真剣に全力で取り組んでいただきたいです。

人生最後の学生生活、楽しむこと、友達との思い出を作ること、忘れずに何事も全力投球で頑張ってください！



仕事先の病院で本学OBでもある松本義弘医師と



楽しかった学生時代(後列右から2番目が小林さん)

■ 薬剤師国家試験について

薬剤師国家試験対策委員長 岩永 一範(教授)

第103回薬剤師国家試験が2月24、25日に行われ、全国で新卒8,606名、既卒4,577名、その他396名の受験者が挑みました。難易度としては第102回とほぼ同程度でしたが、臨床現場での実践力に関連する問題の増加傾向は変わっていません。したがって、6年次生になってからの、いわゆる国家試験対策の勉強のみならず、5年時における実務実習での取り組みそのものが国家試験の結果に結びつくことを念頭に置いておくことが必要です。新モデル・コアカリキュラムに基づいて履修している現4年次生が受験する第106回国家試験に向けてこの傾向は益々顕著になるものと思われま

す。さて、私立大学新卒者の平均合格率が84.11%であったのに対して、本学の新卒者の合格率は、86.65%、全国私立大学56校中25位でした。昨年の26位とほぼ同等であり、目標として掲げていた合格率90%以上を達成することは叶いませんでした。合格者の内訳を見てみると、留年経験の無い学生の合格率が92.57%とまずまずであるのに対して、1回以上の留年経験がある学生の合格率は57.69%と低迷しています。ここ数年同様の傾向が認められており、本年度も引き続き留年経験のある学生への指導を徹底していきます。これまで5年間かけて学習してきた内容の総まとめとして6年次に設定されている「薬学総合演習」の授業がすでに開始されています。前期の授業は基本的に週2日間ありますが、1～5年次で履修した、「物理・化学・生物」、「衛生」、「薬理」、「薬剤」、「病態・薬物治療」、「法規・制度・倫理」、「実務」の全教科について復習を行わねばならず、授業の際にのみ勉強をしているだけでは全く間に合いません。自分で計画を立てて学習を

行い、「授業は確認のために利用する」ことをガイダンス毎に示しています。ただ、焦って取り合えず机に向かって参考書を読んでも決して力にはなりません。忘れてしまったり、きちんと理解できていなかった領域をしっかりと把握した上で、覚えるべき部分は覚え、分からない部分はすぐに解消することに努めることが重要です。あとで覚えたり、あとで理解したりする時間は6年次生には無いことを自覚して学習を進めて下さい。

先日(4/11)行いました確認テストの結果からは、本年度の6年次生の国家試験に対する準備は昨年度と比較してかなり遅れている様子が窺えます。このテストの結果に基づいてクラス分けを行いました。Dクラスに属している学生は、すぐに勉強を開始する必要があります。

6年次生学生の保護者の皆様方におかれましては、ご子息、ご息女が卒業、国家試験合格へ向けて、どの程度実力をつけているのかご心配のことと存じます。薬学総合演習では年に7回の薬学総合演習総合試験(模擬試験)を行い、毎回結果に基づく診断カルテを配布し、自己学習の改善に用いるよう指導しています。また、模擬試験結果を年2回に分けて、保護者に郵送致します。学生達は多大なプレッシャーの中で日々努力をしていますので、保護者からも応援の言葉を掛けて頂くことで、モチベーションが高まることを期待しております。

国家試験対策委員を始め全学をあげて支援をしていく所存ですので「絶対に国家試験に合格するんだ」という強い意志を持ち、来春には一緒に栄冠を勝ち取りましょう。

第103回薬剤師国家試験結果

区分		受験者 (名)	合格者 (名)	合格率 (%)	私立全国平均(%) 私立全国順位
6年制 新卒	男	118	102	86.44	84.11 25位/56校
	女	204	177	86.76	
	計	322	279	86.65	
6年制 既卒	男	61	13	59.02	46.93 19位/56校
	女		23		
	計	61	36		
総合		383	315	82.25	69.55 16位/56校

平成30年2月24日、25日施行

応援隊長だいやくんの

大薬の足跡を追いかける！

「南久太郎町編：都会のど真ん中の学校」編

前号から始まった大阪薬科大学の歴史を辿るだいやくんの旅。

我が大阪薬科大学は、くすりの街「道修町」に誕生したことを知っていただけたかと思ひます。江戸時代からくすりの街として栄えて来た道修町に社屋を構えることは製薬会社の間でステータスであるといった風潮があったようで、そんな道修町に大阪薬科大学の礎があることを誇りに思ひましょ。

道修町 塩野義製薬玄關脇の記念碑



大阪薬科大学発祥の地
大阪薬科大学の前身である大阪道修薬学校が、明治37年(1904年)この地に初代校長となる平山松五氏を中心として、塩野義、塩野吉兵衛氏らの尽力によって設立された
平成18年(2006年)12月22日
平成20年(2008年)4月25日
大阪薬科大学創立100周年記念事業

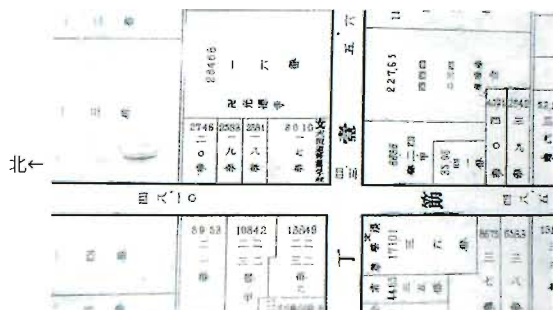
マッチ箱のような白亜の建物

明治37(1904)年5月9日に道修町で産声を上げた大阪道修薬学校ですが、昼間課程の女子部を設置したことも影響し、その場所が創立から3年後には手狭となったため、隣町の内淡路町に分校を設置し、さらにその翌年の明治41(1908)年11月に大阪市東区南久太郎町1丁目(現在の大阪市中央区久太郎町1丁目)の板屋橋筋東北角地に移転を果たすこととなります。

新学舎は、「白いのマッチ箱のような建物」と卒業生が語っているように、木造の白亜のモダンな建物で、2階部分は寄宿舎となっており、1階で授業が行われていたようです。当時、校舎の東隣には光徳寺があり、この寺の本堂を卒業式や会合等でしばしば拝借していたようです。「校友會誌」第2号(明治43年6月発行)には、「明治43年5月7日本校13回卒業式を光徳寺(當校東隣)に於て挙行す」と記録されており、その写真も収録されています。

生徒数の増加により移転したものの、その後も、生徒数は300

名を超え、大正4(1915)年10月の入学期には20名以上の入学を断った経緯があり、この対策として校舎の地続きの北側に増築を計画しているといった記事が「校友會誌」第7号(大正4年12月発行)に残されています。



1912年頃の南久太郎町の地図「大阪市立中央図書館所蔵「大阪地図-実測-」より」17番地には確かに「大阪道修薬学校」の文字が確認できる。16番地には「光徳寺」の文字も。



明治41年頃の南久太郎校舎



東隣の光徳寺の本堂を借りて行われた第13回卒業式

現在の姿

本学の80年史及び100年史には、南久太郎校舎の跡地として、大阪殖産信用金庫船場支店の写真が掲載されています。同建物は、大正11(1922)年に大阪文具俱樂部が竣工したビルでしたが、昭和20(1945)年3月の大阪大空襲により焼失し、その後、昭和24(1949)年に再建復興されたもので、そこに大阪殖産信用金庫船場支店も入っていたものと思われます。現在はその建物も取り壊され、15階建てのモダンなマンションに変わっています。



大阪殖産信用金庫船場支店

中央大通、阪神高速がすぐ側に
地下鉄中央線「堺筋本町」駅へも
徒歩数分圏内の交通至便な場所



現在は15階建ての分譲マンションに(2006年築)

こんな便利な
場所に学校が
あったんだなあ。



年表(南久太郎町時代)

明治41(1908).11.5	東区南久太郎町へ移転
明治42(1909).1	女子部閉鎖(大阪女子薬学校へ吸収される)
明治44(1911).7	女子部復活(大阪女子薬学校廃校のため)
大正8(1919).12	東区東高津北之町の伝光寺内の仮校舎へ移転
大正9(1920).1	3年制の女子薬学部が発足
大正9(1920).6	東成郡天王寺村大字阿部野に移転

久太郎町(きゅうたろうまち)の地名の由来

平成元(1989)年の町名改編により、南久太郎町と北久太郎町が「久太郎町」に統合されました。その地名の由来には諸説あります。かつて、船場辺りは「百済洲」という砂洲でした。その名前は朝鮮半島にあった古代国家の「百済」から来ており、百済系渡来人が多く住んでいたことから名付けられたようです。この「百済」が「久太良」に変化し、「久太郎」になったという説が有力です。

お寺が学校に

大正8(1919)年6月、学校は地主から本年中の立ち退きを迫られ、移転先を探すことを余儀なくされます。しかし、大阪市内に移転先を構えることが困難でやむを得ず、市外の大阪府東成郡天王寺村大字阿部野145番地(現在の大阪市阿倍野区清南通5番地)に土地を購入し、2階建ての校舎を新築することとなりますが、年内の立ち退き期限には間に合わず、学校は同年12月に大阪市東区東高津北之町91番地の伝光寺に学校を一時的に移すこと

としました。どういった縁故で伝光寺に移ったかは定かではありませんが、お寺の本堂を借り受けていたものと思われます。

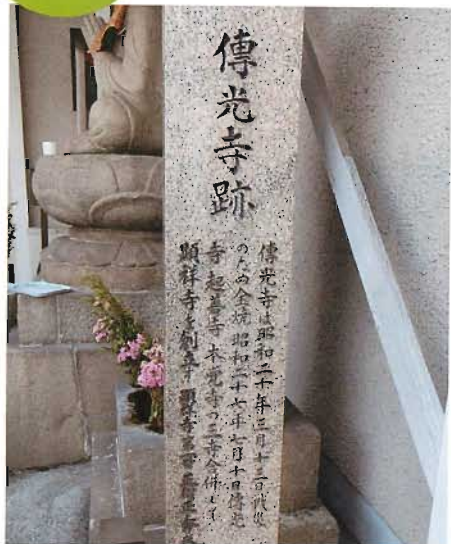
こうして、伝光寺の本堂を仮校舎として間借りし、新校舎が完成する大正9(1920)年6月までのおよそ半年間、生徒たちはここに通うこととなったのです。

以降、次号の阿部野校舎編へ続きます

現在の姿

伝光寺は昭和20(1945)年3月の大阪大空襲により全焼しました。現在は大阪市天王寺区城南寺町の一角の狭いスペースに「伝光寺跡」の石碑が建っていますので、ここに伝光寺があったものと思われます。

※最寄り駅は近鉄線「大阪上本町」駅



斜め向かいの東高津公園から跡地を望む▼

◀伝光寺の跡地に建てられた石碑

ちょっとブレイク

梅川と忠兵衛

「冥途の飛脚」という近松門左衛門作の人形浄瑠璃をご存知でしょうか。

この物語の主人公は、梅川と忠兵衛という大阪に実在した恋人同士です。小百姓の息子であった忠兵衛は淡路町の飛脚問屋に養子入りし、養父が亡くなってから自分が店の切り盛りをしていましたが、新町の遊女梅川と恋に落ち、店のお金を手を付けてしまいます。さらに忠兵衛は梅川の身請けをするために公金にまで手を出し、かくて二人は追われる身となって逃避行の末、忠兵衛の故郷である新口村(現柏原市)までたどり着きますが、捕らえられてしまい、大坂に引き戻されてしまうという悲恋のストーリーです。

没後150年ほど経った安政年間(1854~1860年)に2人の供養墓が建てられました。この供養墓は戦前までは伝光寺にありまし

たが、昭和20(1945)年3月の大空襲で寺が全焼したため、寺の跡地であるこの一角に残されているものと思われます。忠兵衛の墓には「妙法頓覚利達」、梅川の墓には「梅室妙覚信女」と刻まれ、墓の横には「梅忠ノ碑」もありますが、なぜこの地に建てられたのかは不明です。



▲供養墓



▲梅忠ノ碑

伝光寺に通っていた大阪道修薬学校の生徒もこの供養墓の存在を知っていたのかな？



梅川と忠兵衛の悲恋のお話をしましたが、ここにも種を超えたカップルが!?

「君の名は」

久太郎町、城南寺町の旅を終えただいやくん、実はずっと後を着けてく

る影に気づいていました。そう、それは道修町の旅を終えるあたりからずっと…。怖くて確認できなかったけれど、思い切って後ろを振り向いてみると、そこには笹を持ったとても可愛い虎の女の子が立っていました。

「き、君はだれ?」「君の名は?」

「びっくりさせてゴメンやで。私はハリー。道修町でだいやくんを見かけて、キラキラ光るものを持とったから、興味津々やっつん。私も一緒に行きたくてついて来てしもた。」

というわけで、一緒に旅する相棒ができただいやくん。

ますます張り切って今後も旅を続けます!

張り子の虎が名前の由来のハリーをよろしくお願ひします。



大学間連携事業の活動状況

平成30年2月28日(水)午前10時30分から武庫川女子大学中央図書館2階グローバル・スタジオにおいて、関西大学の芝井敬司学長、武庫川女子大学の糸魚川直祐学長、本学の政田幹夫学長のご臨席のもと、平成29年度広域大学連携事業修了証書授与式が行われました。平成20年度に、関西の特色ある5つの大学(武庫川女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、大阪電気通信大学、大阪薬科大学、関西大学)が五大学連携事業として、医療・福祉・工学・情報学など、複数分野にわたる高度な知識や技能を持った人材を育成するために、共通講座を開設して以来、平成29年度で10年間の事業を終了しました。五大学連携事業は、グループワークやプレゼンテーション、施設見学など、様々な授業形態があり、学生にとっては、他大学の学生と交流し、刺激を受ける機会にもなっており、これまでの修了生は延べ1,441名にも及びます。授与式には、今年度の修了生延べ181名のうち、6大学から44名が参加して修了証を受け取りました。授与式の後、開かれた茶話会では、授業で仲良くなった学生たちが歓談し、あちこちで明るい笑い声が上がりました。

大学間連携事業担当 井上 晴嗣(教授)

平成30年度からは、新たに、武庫川女子大学、大阪電気通信大学、大阪薬科大学、藍野大学、森ノ宮医療大学の五大学による「大学間連携による臨床医工学・情報学高度人材育成事業」と名称を変更して再出発し、さらなる展開をめざしています。



三大学医工薬連環科学教育研究機構の活動状況(その14)

准教授(特任) 銭田 晃一

関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学 三大学医工薬連環科学教育研究機構の取り組みも早10年目を迎えることになりました。

前号でご紹介した後に実施した三大学の学生向けの教育活動は、本学の配当科目「機能形態学1」について6名の関西大学生を対象に平成29年12月2日(土)午後、本学C棟301実習室にて大野行弘 教授、清水佐紀 助教の指導のもと、「マウスの一般行動におよぼす精神薬の作用」について実習を実施しました。また、「応用放射化学」について同年12月9日(土)午後、西日本最大規模のコバルト60照射施設を有する大阪府立大学放射線研究センターにおいて量子線化学生物学研究室 古田雅一 教授による講義と放射線安全管理研究室 松浦寛人 教授による施設見学を実施し、本学からは2名、関西大学からは4名の学生が参加しました。

三大学教員によるオムニバス形式の「医工薬連環科学」については平成29年度まで、講義で使用するパワーポイントに少し説明を加えたものを製本化し資料集として履修者に配布してきました。このたび「医工薬連環科学が果たす役割と可能性 高槻家の成長に寄り添う医療」の書名で関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学 医工薬連環科学教育研究機構 編著、ライフサイエンス出版株式会社から平成30年3月教科書として発行に至り、本年度の講義から使用しています。資料集に比べて解説文が充実されており、講義を受けていない方にも読んでいただける内容になっています。

機構の社会貢献事業については、平成30年1月27日(土)に大阪医科大学看護学部講堂において第13回三大学医工薬連環科学シンポジウムを「再生医療における医工薬連環科学の今後を探る」のテーマに開催し、大阪医科大学 薬理学教室 朝日通雄 教授から

「iPS細胞を用いた難病メカニズムの解明と新規治療薬の開発」について、大阪大学 心臓血管外科学 澤芳樹 教授から「循環器治療の新しい取り組み」についてご講演いただき、教職員から一般市民の方々まで再生医療の進歩と医工薬連携の大切さを知っていただきました。

機構の活動内容や状況についてはWEBサイト(<http://www.kansai-u.ac.jp/mpes-3U>)にも掲載しています。また機構は毎年度末に「ニュースレター」を発行し活動状況を紹介しています。最新号(平成30年3月発行第11号はこちらからご覧下さい。<http://www.kansai-u.ac.jp/mpes-3U/pdf/newsletter11.pdf>)



■新入生ガイダンス

年度初めには、新入生学カテストや校医講演、アドバイザー面談など、様々な新入生向けの行事があります。平成30年4月5日(木)に開催された「新入生ガイダンス」では、学生部をはじめ、教務部、キャリアサポート部、図書館からの説明や諸注意がありました。学生生活全般を支援する学生部では、学生相談室による講演、悪徳商法関係講演、カルト関係講演、防犯関係講演、SNS関係の講演を開催しました。



■五月祭(新入生歓迎会)

恒例の五月祭(学友会主催)が平成30年5月11日(金)に体育館で開催されました。

第1部では、軽音楽部、フォークソング部、コーラス部、アンサンブルサークルによる演奏・発表や、ダンス部によるステージ、アドバイザー単位でのクイズ大会などがあり、第2部では全学年でのビンゴ大会が行われました。今年は、旅行券など、豪華な景品が用意され、大いに盛り上がりました。

学生間はもとより、教職員との交流を深める良い機会となりました。



■平成29年度学生表彰

平成30年3月10日(土)、学位記授与式後に平成29年度学生表彰を行いました。大阪薬科大学学生表彰規程に基づき、学術研究活動、課外活動等において功績があった学生や学生団体に対し、大桃善朗学生部長から、各表彰者の業績及び選考の経緯等が説明され、政田幹夫学長から表彰状の授与並びに記念品が手渡されました。



平成29年度 学生表彰者一覧

■規程第2条第1号(学術研究活動において、特に顕著な業績を挙げた学生又は学生団体)

学年	所属・団体	名前	業績
5	循環病態治療学	嶋田 真子	ヨーロッパ心臓病学会 BestPosterPresentation
6	製剤設計学	野上 聡	日本海学会若手会第8回学生研究発表会:優秀賞 日本海学会誌68年会学生:優秀賞
6	薬品作用解析学	大西 奏子	次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2017 優秀ポスター発表賞
6	生体防御学	村瀬 博子	第18回Pharmaco-Hematologyシンポジウム 優秀発表賞
6	薬剤学	上西 愛華	第67回日本薬学会近畿支部大会 優秀ポスター賞
6	薬剤学	柴田 葵	第67回日本薬学会近畿支部大会 優秀ポスター賞

■規程2条第2号(課外活動において特に優秀な成績を修めた学生又は学生団体)

学年	所属・団体	名前	業績
1	野球部	三福 徹	平成29年度近畿学生野球秋季リーグ戦 Ⅲ部ベストナイン賞 外野手
1	野球部	坪田 快斗	平成29年度近畿学生野球秋季リーグ戦 Ⅲ部ベストナイン賞 外野手
2	野球部	安場 清高	平成29年度関西薬学学生連盟硬式野球大会 最優秀選手賞
4	卓球部	代表:石谷 有梨佳	第60回全日本薬学生卓球大会 女子団体優勝
6	ダンス部	伊藤 悠貴	JAPAN DANCE DELIGHT vol.24 FINALIST

■規程2条第4号(その他前各号と同等以上の功績等により、表彰に価すると認められる学生又は学生団体)

学年	所属・団体	名前	業績
4	-	濱本 貴子	公益財団法人日本青年会議所「超生産性向上大賞」 特別賞

平成30年度 学友会執行委員会

執行委員長	菅野 真那
副執行委員長	永田 恭平
総務局長	入谷 美玖
会計部長	土井 瑤子
厚生局長	仲谷 梓
文化局長	川舟 菜七子
体育局長	山崎 智世
広報渉外局長	月岡 知嘉子

平成30年度 大薬祭実行委員会

大薬祭実行委員長	乾 直郎
大薬祭副実行委員長	若森見路
総務部長	入谷 美玖
イベント部長	大塚 杏樹
リサイクル部長	森 咲月
渉外部長	近藤 良一
渉内部長	楠見 史絵
装飾部長	小坂 なつ美

大阪薬科大学の国際交流

大阪薬科大学の留学制度

大阪薬科大学国際交流基金による助成事業として、次のような助成をしています。

交換留学プログラム

■大学が締結している海外学術交流協定大学との交換留学
☆助成額: 渡航にかかる交通費、滞在費、参加費の経費総額から20万円を上限に助成

海外研修旅行・海外語学留学

■各自で企画する海外研修旅行、海外語学研修
■大学が紹介する海外研修・短期留学
☆助成額: 渡航にかかる交通費、滞在費、参加費の経費総額の5割。但し15万円を上限に助成

国際学会等発表

■国際学会等発表
☆助成額: 渡航にかかる交通費、滞在費、参加費の経費総額の8割。但し15万円を上限に助成

申請は、当該学生が指導教員(アドバイザーを含む)の承認を得て、事業実施前に指定する様式により行う。
原則として、同一事業年度に複数回助成を受けることはできない。
国際交流委員会の承認を経て助成が決定します。

<申請様式は本学ホームページ> HOME >教育・研究>国際交流
<http://www.oups.ac.jp/gakujutsu/kokusaikoryu/index.html>



留学は自分の視野を広げる絶好の機会! 大学の制度を利用してチャレンジしよう!

海外学術交流協定大学等との間で実施する事業

募集時期	渡航先・企画	助成額	渡航期間
10月頃	シーナカリンウィロート大学海外短期留学 (タイ)<募集人員2名> 費用約10~18万円	対象経費総額から20万円を 限度に助成	2~3月頃の約1ヶ月間

本学学生に対する渡航奨学事業

①海外研修旅行・海外語学留学

募集時期	渡航先・企画	助成額	渡航期間
前期: 平成30年5月7日(月) ~平成30年8月31日(金) 後期: 平成30年11月12日(月) ~平成31年3月8日(金)	自主企画	対象経費総額の5割。 但し15万円を上限に助成	夏季・冬季・春季休暇中
	バンクーバー短期視察研修 (カナダ)<10~15名で実施> 費用約33万円		8月18日~8月27日
	オーストラリア薬学語学研修 (オーストラリア)<10~15名以上で実施> 費用約46万円		3月頃の約2週間

②国際学会等発表

募集時期	渡航先・企画	助成額	渡航期間
随時	国際学会開催国	対象経費総額の8割。 但し15万円を上限に助成	随時

■新入生交流・導入教育

新入生が大学の学びにスムーズに移れることを目的として、毎年6月下旬までの期間にアドバイザー単位で「新入生交流・導入教育」を実施しています。アドバイザー単位での実施となり、企画は各アドバイザーに任せられており、充実した様々なプランが立てられ実行されました。

主な企画内容は「会食」が多く、その他に「美術館見学」「京都観光」「野球観戦」「動物園見学」など、楽しく食事をしたり、施設を見学したりしながら、これからの大学生活や学習方法などについてアドバイザーからアドバイスを受け、新入生同士の交流が図られました。

■大薬祭「bloom」の開催

本年度の大薬祭は、「bloom」をテーマに、平成30年11月3日(土)～11月4日(日)の日程で開催されます。今年から大薬祭の期間が2日間に短縮されることとなりました。期間が短い分内容密度が濃くなることと思います。昨年は「サイタルイベントがFM802「ROCK KIDS 802 学園祭SPECIAL LIVE! 祭! 祭! 祭! スピンオフ学園祭“超”緊急“大”公開座談会収録～ポルノ薬科大作戦～」として行われ、「10-FEET」「ROTTENGRAFFTY」が出演し、大いに盛り上がりました。

今年もすでに大薬祭実行委員が準備を始めています。楽しい企画にご期待ください。



学生相談室だより

みなさんは『ライ・トゥ・ミー 嘘は真実を語る』という海外ドラマを見たことがありますか？このドラマでは、ライトマンという主人公の精神行動分析学者が「微表情」と呼ばれる、瞬間的にその人に現れる表情から嘘を見破ることで、犯罪捜査を解決していきます。かつて何気なくシリーズを見ていた時に、ふと何か聞いたことがあるなど、自宅の本棚を見たところ、ライトマン博士のモデルであるP.エクマン(1987)の「表情分析入門」という著書が自宅にありました。私が学部時代に買った本ですが、自分が興味を持っていたものがドラマになったことが嬉しかったのを覚えています。

さて、このP.エクマンは人の表情は各国の文化によって違うのではなく、人類の持つ普遍的なものであることを明らかにしました。彼は発展途上の文化で暮らす民族に異なる文化圏で生活する人物の表情の写真から、その意図を正しく読み取れるかどうかを調査し、表情は人類に普遍的で生得的なものと結論づけています。エクマンが普遍的であるとしたのは「怒り」「嫌悪」「恐れ」「喜び」「悲しみ」「驚き」の6つの表情であり、著書にも6つの表情が顔写真によって具体的に示されています。

では、このドラマを見て各表情の特徴を知れば、相手の感情が読み取れるのでしょうか。今度は、ミシガン大学のR・リヴァイン(2010)が、このドラマ見て、嘘を見分ける能力が向上するかどうかの実験を行っています。この実験では、ドラマを見るグループ、ドラマを見ないグループ、別の犯罪ドラマを見るグループに分け、ドラマ視聴後に異なる表情を見せて嘘かどうかを見極められるかを確認しています。結果は、3つのグループともに正解率に差はなく、ドラマを見ただけでは嘘を見分ける能力は向上しないことがわかりました。つまり、ドラマの手法をただ当てはめるだけでは、相手の心理状態を理解することはできないということです。この結果は、表情以外のボディランゲージ等には文化差があり、話すときの個人の癖も影響しているからと言われています。相手の表情から読み取れるのは、あくまでも相手の心理状態を読み取るためのちょっとした手がかり程度のものだと思うのがいいのかもしれませんが、ただ、ドラマでは実在の著名な人物の写真を用いることで表情を説明する場面もあり、楽しく見られるよう工夫されていますので、興味がある人にはお勧めです。

人の心はわかりませんよね。人の心どころか、自分の気持ちさえ

もわからないこともあると思います。でも、わからないからこそ、良いこともあるのかもしれない。ドラマの中でも主人公のライトマン博士は、人の嘘がわかるが故の問題を抱えていました。

大学生活では、大学内の友人や部活、サークルなどの人間関係に加え、アルバイトなど、人間関係の幅が広がり、その分悩みや不安も生じやすくなります。何かあればいつでも学生相談室に来てください。

<参考文献>

『表情分析入門—表情に隠された意味をさぐる』

P.エクマン/ W.V. フリーゼン共著 工藤力訳 1987年

Timothy R. Levine, Kim B. Serota, Hillary C. Shulman (2010) The Impact of Lie to Me on Viewers' Actual Ability to Detect Deception Communication Research 37(6) 847-856

学生相談室

本学では、学生相談室を設け、週に3回、カウンセラー(臨床心理士)が相談を受け付け、学生が抱える問題や悩みに対処しています。保護者からの相談も可能です。



若林 暁子



小田 佳子



西田 裕子

受付時間

【毎週火曜日】

12:00-16:00 若林 暁子

【毎週木曜日】

12:00-16:00 小田 佳子

【毎週金曜日】

14:00-18:00 西田 裕子

問合せ

TEL:072-690-1077(直通)
e-mail:counsel@gly.oups.ac.jp

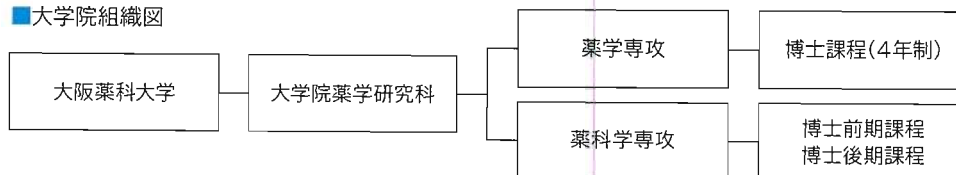
■大学院のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの改正

平成29(2017)年度に大学院のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを以下のとおり改正しました。

■平成30(2018)年度以前入学者に適用

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)	教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)
<p><博士前期課程> 本大学院薬学研究科薬科学専攻博士前期課程の学位授与の要件は、所定の期間在学し、修士課程の教育・研究の理念に沿った教育・研究指導を受け、修士論文の審査、試験に合格し、修士課程を修了することです。授与する学位は「修士(薬科学)」とし、審査にあたり、 ・広く高度で知的な素養と幅広く深い学問的知識を身に付け、柔軟な応用力を備えた研究能力、倫理観、さらには国際的視野を持つこと。 を学位授与の基準とします。</p> <p><博士後期課程> 本大学院薬学研究科薬科学専攻博士後期課程の学位授与の要件は、所定の期間在学し、博士課程の教育・研究の理念に沿った教育・研究指導を受け、博士論文の審査、試験に合格し、博士課程を修了することです。授与する学位は「博士(薬科学)」とし、審査にあたり、 ・生命科学の応用として展開される創薬科学や関連する研究領域において、新しい視点と独自の発想から課題を的確に把握し、それを解決できる高度な専門的知識と技能、倫理観を持ち、さらに指導力とリーダーシップを発揮して薬科学領域の研究に貢献できる能力を身に付けていること。 を学位授与の基準とします。</p> <p><博士課程> 本大学院薬学研究科薬科学専攻博士課程の学位授与の要件は、所定の期間在学し、博士課程の教育・研究の理念に沿った教育・研究指導を受け、博士論文の審査、試験に合格し、博士課程を修了することです。授与する学位は「博士(薬学)」とし、審査にあたり、 1. 薬学研究に貢献できる十分な能力を有し、高度かつ広範で最新の知識、並びに高度かつ優れた技能・態度・倫理観・責任感等を身に付けていること。 2. 優れた臨床的洞察力・観察力・解析力を持ち、臨床現場に精通していること。 を学位授与の基準とします。</p> <p><博士課程 がん専門薬剤師養成コース> 本大学院薬学研究科薬科学専攻博士課程の学位授与の要件は、所定の期間在学し、博士課程の教育・研究の理念に沿った教育・研究指導を受け、博士論文の審査、試験に合格し、博士課程を修了することです。授与する学位は「博士(薬学)」とし、審査にあたり、 1. 薬学研究に貢献できる十分な能力を有し、高度かつ広範で最新の知識、並びに高度かつ優れた技能・態度・倫理観・責任感等を身に付けていること。 2. 優れた臨床的洞察力・観察力・解析力を持ち、臨床現場に精通していること。 3. がん専門薬剤師に求められる医療における実践を体験し、臨床研究に従事して症例報告や症例検討を行うことができること。 を学位授与の基準とします。</p>	<p><博士前期課程> 薬科学専攻博士前期課程(修士課程)において、学生は3つの研究領域(分子構造・機能解析学領域、創薬化学領域、生命・環境科学領域)のいずれかに所属し、主として所属研究室の指導教員により研究・教育指導を受けることとしており、次のような方針でカリキュラムを編成し、実施しています。 1. 基礎薬学の知識の上に立ち、さらに深い専門的学識と倫理観を体得し、専門分野における応用力を向上・充実させます。 2. 講義科目は選択制を基本とし、学生の自主性や専門性に配慮します。 3. 問題解決能力や研究の国際交流上必要なコミュニケーション能力を養成するため、演習(特別演習)及び特別研究を配置します。</p> <p><博士後期課程> 薬科学専攻博士後期課程(博士課程)において、学生は2つの研究領域(分子構造・機能解析学領域、創薬化学領域)のいずれかに所属します。研究・教育指導は、所属研究室の指導教員を中心に行うが、これに加えて当該研究領域の教員並びに「大学院薬学研究科薬学専攻博士課程」の医療系教員とも連携し、学生に対して複眼的な視点からの研究・教育指導が行える体制としており、次のような方針でカリキュラムを編成し、実施しています。 1. 専門分野に関連した他の研究領域の知識と技能を取込み、オリジナリティーの高い独自の専門分野を開発・発展させることのできる柔軟性と応用力、倫理観を備えた資質を涵養することを目的とした講義科目を配置します。 2. 問題解決能力や課題探究能力を養成するため、特別演習、特別研究演習、及び特別研究を配置します。</p> <p><博士課程> 本大学院薬学研究科薬科学専攻博士課程において、臨床・医療薬学領域における広い視野と専門性の高い研究能力の涵養を行い、高度な知識と技能をもって国民の健康の維持増進、公衆衛生の向上並びに疾病の予防、治療等に資する優れた人材を養成するための教育研究を基本とします。そのため、 1. 予防薬学、創薬薬理・薬物治療薬学と薬物機能解析薬学、臨床・医療の実践による病態解析薬学及び医療評価薬学、さらにこれらを有機的に連携させたトランスレーショナルリサーチと臨床からのフィードバックを取り入れた、総合的な臨床・医療薬学教育を行います。 2. 科目を通じて、専門性の高い研究力、研究成果や情報の正確な伝達能力・説明能力を養成するとともに、臨床・医療の分野で求められる崇高な倫理観、使命感を涵養します。科目は講義、演習に分けて開講するとともに、特別研究を配置します。</p> <p><博士課程 がん専門薬剤師養成コース> 本大学院薬学研究科薬科学専攻博士課程がんプロコース(がん専門薬剤師養成コース)において、臨床・医療薬学領域における広い視野と高い専門性、研究能力の涵養を行い、高度な知識と技能をもって国民の健康の維持増進、並びに疾病の予防・治療等に資する優れた人材を養成する教育研究を基本としつつ、がん医療における高い専門性と研究力を備えた、がん専門薬剤師を養成します。そのため、 1. 予防薬学、創薬薬理・薬物治療薬学と薬物機能解析薬学、臨床・医療の実践による病態解析薬学及び医療評価薬学、さらにこれらを有機的に連携させたトランスレーショナルリサーチと臨床からのフィードバックを取り入れた、総合的な臨床・医療薬学教育を行います。 2. 科目を通じて、専門性の高い研究力、研究成果や情報の正確な伝達能力・説明能力を養成するとともに、臨床・医療の分野で求められる崇高な倫理観、使命感を涵養します。科目は講義、演習に分けて開講するとともに、特別研究を配置します。 3. がんに対する基礎と応用の高い研究能力を身に付けるため臨床研修を実施します。がん医療の高度化・均てん化に貢献することのできる知識と技能、態度を修得できるよう、症例報告、症例検討に参加します。</p>

■大学院組織図



■平成31(2019)年度以降入学者に適用

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)	教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)
<p><博士前期課程> 本大学院薬学研究科薬科学専攻博士前期課程の学位授与の要件は、所定の期間在学し、修士課程の教育・研究の理念に沿った教育・研究指導を受け、修士論文の審査、試験に合格し、修士課程を修了することです。授与する学位は「修士(薬科学)」とし、審査にあたり、 ・広く高度で知的な素養と幅広く深い学問的知識を身に付け、柔軟な応用力を備えた研究能力、倫理観、さらには国際的視野を持つこと。 を学位授与の基準とします。</p> <p><博士後期課程> 本大学院薬学研究科薬科学専攻博士後期課程の学位授与の要件は、所定の期間在学し、博士課程の教育・研究の理念に沿った教育・研究指導を受け、博士論文の審査、試験に合格し、博士課程を修了することです。授与する学位は「博士(薬科学)」とし、審査にあたり、 ・生命科学の応用として展開される創薬科学や関連する研究領域において、新しい視点と独自の発想から課題を的確に把握し、それを解決できる高度な専門的知識と技能、倫理観を持ち、さらに指導力とリーダーシップを発揮して薬科学領域の研究に貢献できる能力を身に付けていること。 を学位授与の基準とします。</p> <p><博士課程> 本大学院薬学研究科薬学専攻博士課程の学位授与の要件は、所定の期間在学し、博士課程の教育・研究の理念に沿った教育・研究指導を受け、博士論文の審査、試験に合格し、博士課程を修了することです。授与する学位は「博士(薬学)」とし、審査にあたり、 1. 薬学研究に貢献できる十分な能力を有し、高度かつ広範で最新の知識、並びに高度かつ優れた技能・態度・倫理観・責任感等を身に付けていること。 2. 優れた臨床的洞察力・観察力・解析力を持ち、臨床現場に精通していること。 を学位授与の基準とします。</p> <p><博士課程 がん専門薬剤師養成コース> 本大学院薬学研究科薬学専攻博士課程の学位授与の要件は、所定の期間在学し、博士課程の教育・研究の理念に沿った教育・研究指導を受け、博士論文の審査、試験に合格し、博士課程を修了することです。授与する学位は「博士(薬学)」とし、審査にあたり、 1. 薬学研究に貢献できる十分な能力を有し、高度かつ広範で最新の知識、並びに高度かつ優れた技能・態度・倫理観・責任感等を身に付けていること。 2. 優れた臨床的洞察力・観察力・解析力を持ち、臨床現場に精通していること。 3. がん専門薬剤師に求められる医療における実践を体験し、臨床研究に従事して症例報告や症例検討を行うことができること。 を学位授与の基準とします。</p>	<p><博士前期課程> 薬科学専攻博士前期課程(修士課程)において、学生は3つの研究領域(分子構造・機能解析学領域、創薬化学領域、生命・環境科学領域)のいずれかに所属し、主として所属研究室の指導教員により研究・教育指導を受けることとしており、次のような方針でカリキュラムを編成し、実施しています。 1. 基礎薬学の知識の上に立ち、さらに深い専門的学識と倫理観を体得し、専門分野における応用力を向上・充実させます。 2. 講義科目は選択制を基本とし、学生の自主性や専門性に配慮します。 3. 問題解決能力や研究の国際交流に必要なコミュニケーション能力を養成するため、演習(特別演習)及び特別研究を配置します。</p> <p><博士後期課程> 薬科学専攻博士後期課程(博士課程)において、学生は3つの研究領域(分子構造・機能解析学領域、創薬化学領域、生命・環境科学領域)のいずれかに所属します。研究・教育指導は、所属研究室の指導教員を中心に行うが、これに加えて当該研究領域の教員並びに領域外の教員とも連携し、学生に対して複眼的な視点からの研究・教育指導が行える体制としており、次のような方針でカリキュラムを編成し、実施しています。 1. 専門分野に関連した他の研究領域の知識と技能を取込み、オリジナリティーの高い独自の専門分野を開発・発展させることのできる柔軟性と応用力、倫理観を備えた資質を涵養することを目的とした講義科目を配置します。 2. 問題解決能力や課題探究能力を養成するため、特別演習、特別研究演習、及び特別研究を配置します。</p> <p><博士課程> 本大学院薬学研究科薬学専攻博士課程において、臨床・医療薬学領域における広い視野と専門性の高い研究能力の涵養を行い、高度な知識と技能をもって国民の健康の維持増進、公衆衛生の向上並びに疾病の予防、治療等に資する優れた人材を養成するための教育研究を基本とします。そのため、 1. 医療薬学、生物・予防薬学と創薬化学、臨床・医療の実践による薬学臨床、さらにこれらを有機的に連携させたトランスレーショナルリサーチと臨床からのフィードバックを取り入れた、総合的な臨床・医療薬学教育を行います。 2. 科目を通じて、専門性の高い研究力、研究成果や情報の正確な伝達能力・説明能力を養成するとともに、臨床・医療の分野で求められる崇高な倫理観、使命感を涵養します。科目は講義、演習に分けて開講するとともに、特別研究を配置します。</p> <p><博士課程 がん専門薬剤師養成コース> 本大学院薬学研究科薬学専攻博士課程がんプロセス(がん専門薬剤師養成コース)において、臨床・医療薬学領域における広い視野と高い専門性、研究能力の涵養を行い、高度な知識と技能をもって国民の健康の維持増進、並びに疾病の予防・治療等に資する優れた人材を養成する教育研究を基本としつつ、がん医療における高い専門性と研究力を備えた、がん専門薬剤師を養成します。そのため、 1. 医療薬学、生物・予防薬学と創薬化学、臨床・医療の実践による薬学臨床、さらにこれらを有機的に連携させたトランスレーショナルリサーチと臨床からのフィードバックを取り入れた、総合的な臨床・医療薬学教育を行います。 2. 科目を通じて、専門性の高い研究力、研究成果や情報の正確な伝達能力・説明能力を養成するとともに、臨床・医療の分野で求められる崇高な倫理観、使命感を涵養します。科目は講義、演習に分けて開講するとともに、特別研究を配置します。 3. がんに対する基礎と応用の高い研究能力を身に付けるため臨床研修を実施します。がん医療の高度化・均てん化に貢献することのできる知識と技能、態度を修得できるよう、症例報告、症例検討に参加します。</p>

■平成30年度科研費採択者一覧

(単位:千円)

	氏名	職名	応募種目	研究課題	直接経費	間接経費
新規	戸塚 裕一	教授	基礎研究(C)	機能性有機ナノコンポジット構造の解明とハイブリット化への戦略的構築	1,400	420
	尾崎 恵一	教授	基礎研究(C)	シグナル伝達病治療標的としてのERK-MAPキナーゼ経路下流因子の探索	1,800	540
	天満 敬	教授	挑戦的研究(萌芽)	チエレンコフ光エネルギーによる分子マシン駆動と革新的がんセラノスティクスへの挑戦	2,400	720
	角山 香織	准教授	若手研究	Real world dataを活用した副作用モニタリング支援システムの基盤構築	700	210
	細畑 圭子	准教授	基礎研究(C)	食塩感受性高血圧における慢性腎臓病の早期バイオマーカーの臨床展開と機序解明	1,000	300
	城下 賢一	准教授	基礎研究(C)	ポスト55年体制における圧力団体・農協の政治活動の内在的・総体的把握	1,000	300
	加藤 隆児	准教授	基礎研究(C)	インフラマソーム反応に着目した特異体質性薬物性肝障害の機序解明と評価法の開発	900	270
	大野 行弘	教授	基礎研究(C)	シナプス分泌障害に起因する精神疾患の病態解明	900	270
	永井 純也	教授	基礎研究(C)	糸球体から漏出したアルブミンに結合する脂肪酸及び薬物の腎尿管移行特性と影響解析	1,200	360
	中村 任	教授	基礎研究(C)	プラチナ系抗癌剤の副作用発現とバイオメタル変動との連関解析	1,200	360
継続	藤森 功	教授	基礎研究(C)	エイコサノイドによる肥満制御機構の解明とその制御機構に基づく新規治療法の探索	1,000	300
	スミス 朋子	教授	基礎研究(C)	薬学系英語教育における授業モデルの構築:専門語彙・読解教材の開発と効果の検証	400	120
	宮崎 誠	教授	基礎研究(C)	交替勤務従事者のための糖尿病薬物治療の開発:光で変動し続ける治療効果のモデリング	600	180
	和田 俊一	准教授	基礎研究(C)	時空間制御機能を兼ね備えたAib含有ヘリックスペプチドの核酸医薬への応用	900	270
	平田 雅彦	講師	基礎研究(C)	ポストFDGを旨とした新規放射性薬剤の開発~p38α活性診断薬剤の開発~	1,200	360
	東 剛志	助教	若手研究(B)	病院排水中に残留する医薬品成分を対象にした新規水処理技術の開発と有効性評価	500	150
	藤井 俊裕	助教	若手研究(B)	新規の活性化機序のリン脂質スクランブラーゼの同定と機能解析	900	270
	小池 敦賢	助教	若手研究(B)	TLRシグナルを介した新奇薬物相互作用によるマクロファージ細胞死の分子機構の解明	1,200	360
	清水 佐紀	助教	若手研究(B)	本態性振戦の病態メカニズム解析と新たな治療薬ターゲットの解明	700	210
	近藤 直哉	助教	若手研究(B)	核医学的手法を用いた脳外作用指向型新規GLP-1アナログの開発	900	270
加藤 巧馬	助教	研究活動スタート支援	ジ置換アミノ酸の特徴を活かした膜透過性ペプチドの創製とDDSキャリアとしての応用	1,000	300	
倉田 里穂	助教	若手研究(B)	新規パーチエット病感受性遺伝子TRIM39RにおけるIFN制御機構の解明	1,100	330	
金井 泰和	助教(特任)	基礎研究(C)	SPECT用ブドウ糖代謝機能測定放射性薬剤の開発と基礎的評価	1,000	300	
				23,900	7,170	

■研究助成金採択一覧

〈平成29年度〉

※所属研究室、職位は受賞当時で記載しています。

研究助成機関	採択者	採択テーマ
公益財団法人てんかん治療研究振興財団	大野 行弘 教授 (薬品作用解析学研究室)	新規てんかん原性因子 Gα inhibitory interacting protein(GINP)の機能解析研究
公益財団法人喫煙科学研究財団	大野 行弘 教授 (薬品作用解析学研究室)	錐体外路系運動障害の発現調節におけるニコチン受容体の役割
公益財団法人日本食品化学研究振興財団	内山 博雅 助教 (製剤設計学研究室)	酵素処理イソクエルシトリンを用いた高付加価値機能性食品の開発
公益財団法人武田科学振興財団	細畑 圭子 准教授 (臨床薬学教育研究センター)	腎生検標本を用いた慢性腎臓病の鑑別診断バイオマーカーの開発
日本私立学校振興・共済事業団(平成29年度学術研究振興資金)	細畑 圭子 准教授 (臨床薬学教育研究センター)	水腎症の早期検出を指向した基礎および臨床検討
公益財団法人クリタウ・環境科学振興財団	東 剛志 助教 (環境分子生理学研究室)	医療機関の排水を対象にした消毒技術の有効性評価
公益財団法人コスメトロジー研究振興財団	戸塚 裕一 教授 (製剤設計学研究室)	ケルセチン含有化粧品の有効使用のための有機ナノコンポジット設計
公益財団法人ホソカワ粉体工学振興財団	藤森 美季(薬学専攻 博士課程2年次生) (製剤設計学研究室)	食品添加剤の会合体形成能による医薬品の溶解性改善

〈平成30年度〉

※平成30年6月現在

研究助成機関	採択者	採択テーマ
公益財団法人喫煙科学研究財団	大野 行弘 教授 (薬品作用解析学研究室)	錐体外路系運動障害の発現調節におけるニコチン受容体の役割
公益財団法人河川財団	東 剛志 助教 (環境分子生理学研究室)	河川環境中に分布する薬剤耐性菌の不活化因子の評価
公益財団法人サッポロ生物科学振興財団	門田 和紀 准教授 (製剤設計学研究室)	超高齢社会の多様なニーズに応じたテラーメイド型機能性ゼリー剤の開発
公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団	内山 博雅 助教 (製剤設計学研究室)	コムスフィンゴ糖脂質を用いたナノ加工技術の開発と機能性食品への応用
公益財団法人一般医薬品セルフメディケーション振興財団	恩田 光子 教授 (社会薬学・薬局管理学研究室)	薬局薬剤師による個別化された禁煙支援の実践とその効果に関する介入研究

■大阪薬科大学 研究振興基金助成

平成29年度研究振興基金助成

平成29年度研究振興基金助成は、若手専任教員が本学で行った研究成果の中で、特に優れた研究論文を発表した者を顕彰し、更なる研究活動の発展を支援することを目的としたものです。平成29年度は以下の3名が受賞となりました。受賞者には、研究助成金が贈呈されました。

氏名	論題	雑誌名
米山 弘樹 (有機薬化学研究室 助教)	Transformation of Carbonyl Compounds into Homologous Alkynes under Neutral Conditions : Fragmentation of Tetrazoles Derived from Cyanophosphates	The Journal of Organic Chemistry
菊地 崇 (医薬品化学研究室 助教)	Pleurocins A and B: Unusual 11(9→7)-abeo-Ergostanes and Eringiacetal B: A 13,14-seco-13,14-Epoxyergostane from Fruiting Bodies of Pleurotus eryngii and Their Inhibitory Effects on Nitric Oxide Production	The Journal of Organic Chemistry
東 剛志 (環境分子生理学研究室 助教)	A method for evaluating the pharmaceutical deconjugation potential in river water environments	Chemosphere

※所属研究室、職位は受賞当時で記載しています。

平成30年度研究振興基金助成 第1回学長特別表彰

平成30年5月29日(火)、第1回目の学長特別表彰式を執り行い、政田幹夫学長から以下2名の先生方に、表彰状と記念品、ならびに研究助成金が贈呈されました。

「学長特別表彰」は、本学における研究活動に日々尽力され、その業績が極めて優秀な教員に対して、その功績を称え、更なる研究活動の発展を支援することを目的に授与されます。

門田 和紀 製剤設計学研究室 准教授	清水 佐紀 薬品作用解析学研究室 助教
--------------------	---------------------



■平成29年度学位授与

[博士]	論文博士	博士(薬科学)論博薬科第76号 小濱 清子 リポ多糖(LPS)によってマクロファージに短時間で誘導される細胞障害に関する研究 ~p38 MAPKの持続的なリン酸化とMAP Kinase phosphatase-1(MKP-1)の関与~ (平成30年3月10日付)		
	課程博士	博士(薬学)博薬第33号 國澤 直史 Nicotine 誘発振戦の発現メカニズム解析 (平成30年3月10日付)		
		博士(薬科学)博薬科第34号 HIGOR ALVES IHA Pharmacological analysis of the mechanisms underlying seizure induction mediated by nicotinic acetylcholine receptors ニコチン性アセチルコリン受容体を介するけいれん発作発現メカニズムの薬理解析 (平成30年3月10日)		
[修士]	修士(薬科学)	男子1名 計1名 (平成30年3月10日)	[学士]	学士(薬学) 男子118名 女子204名 計322名 (平成30年3月10日) 学士(薬科学) 男子1名 女子1名 計2名 (平成30年3月10日)

■平成30年度白衣授与式を開催

平成30年3月29日(木)午前10時より、本学講堂にて病院・薬局実務実習に赴く5年次生を対象に白衣授与式を開催しました。大学から授与された白衣を身につけ、政田幹夫学長、実務実習実施部会責任者の小森勝也教授(特任)の式辞に耳を傾けていました。



■平成29年度実務実習伝達・報告会を開催

平成30年3月29日(木)午後1時より、本学体育館にて平成29年度に実務実習を行った学生が、実習先で学んだ知識を学生に伝達する「実務実習伝達・報告会」を開催しました。今年度は、体育館で開催し、全員が発表を行いました。発表では、実務実習で培った知識だけではなく、心構えや実務実習前後の思いの変化などを熱心に伝えていました。

また、当日は遠方から多数の指導薬剤師の先生方にもご出席いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。



■キッチンカーの出店

キャンパスアメニティ向上の一環として、五月祭の日(平成30年5月11日(金))にキッチンカーの出店をお願いいたしました。当日は、天気も良く、初めての試みでしたが、大勢の学生に利用いただき、クレープ、カフェ、タコス、ケバブ、ステーキの5店舗の出店がありましたが、すべて完売となりました。

キャンパス内が活気に溢れ、大変好評でしたので、定期的な実施を計画しています。



平成30年度 大阪薬科大学 生涯学習開講プログラム

■平成30年度 大阪薬科大学公開教育講座

[第78回]

開催日	平成30年5月26日(土) 14:00~17:35
演題 講師	(1)「進行期肺がんの薬物療法」 京都府立医科大学大学院 医学研究科 呼吸器内科学 教授 高山 浩一 先生 (2)「肺癌治療における多職種協働～薬剤師の役割と可能性～」 住友別子病院薬剤部 副科長 矢野 琢也 先生
会場	関西大学 梅田キャンパス

[第79回]

開催日	平成30年7月21日(土) 14:00~17:35
演題 講師	(1)「糖尿病治療薬開発を推進するDDSの最新の話」 神戸学院大学薬学部 薬物送達システム学研究室 教授 武田 真莉子 先生 (2)「なぜ糖尿病薬はハイリスク薬なのか ～インスリン製剤を中心に～」 大阪医科大学 内科学I 教授 今川 彰久 先生
会場	梅田スカイビルタワーウエスト36階

[第80回]

開催日	平成30年11月17日(土) 14:00~17:35
演題 講師	(1)「未定」 厚生労働省 医薬・生活衛生局 総務課 薬事企画官 紀平 哲也 先生 (2)「未定」 千葉大学医学部附属病院 薬剤部 教授 石井 伊都子 先生
会場	新大阪丸ビル別館(予定)
受講料	各回とも3,000円(本学卒業生の受講料は、2,000円)
単位等	日本薬剤師研修センター2単位 大阪府薬剤師会5単位 大阪府病院薬剤師会10単位
申込	事前申込不要です。直接会場へお越しください。

■平成30年度 大阪薬科大学薬剤師のためのフィジカルアセスメントセミナー

[ベーシック編]

開催日	【第1回】平成30年5月13日(日) 【第2回】平成30年7月8日(日) 【第3回】平成30年9月9日(日) 【第4回】平成30年11月11日(日) =申込受付中=
-----	---

[アドバンス編]

開催日	【第1回】平成30年6月10日(日) 【第2回】平成30年10月14日(日) =申込受付中=
開催時間	10:00~13:00
会場	大阪薬科大学 D-3Aセミナー室
受講料	各回 2,000円(本学卒業生の受講料は、1,000円)
定員	10名(先着順)
単位	日本薬剤師研修センター1単位
申込	大阪薬科大学ホームページ 「薬剤師のためのフィジカルアセスメントセミナー応募フォーム」 からお申し込みください

■平成30年度 大阪薬科大学サテライトセミナー

[第1回]

開催日	平成30年4月22日(日)
研修内容	「医薬品情報の活用-ポリファーマシーへの対応①-」
講師	大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター 教授 中村 敬明 先生 他

[第2回]

開催日	平成30年5月20日(日)
研修内容	「医薬品情報の活用-ポリファーマシーへの対応②-」
講師	大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター 准教授 角山 香織 先生 他

[第3回]

開催日	平成30年8月26日(日) =申込受付中=
研修内容	「紙と鉛筆でできる!?薬物体内動態の変動を予想する」
講師	大阪薬科大学 薬学教育研究センター 教授 宮崎 誠 先生 他

[第4回]

開催日	平成30年10月28日(日) =申込受付中=
研修内容	「RMPを日常業務に活かそう～胃酸分泌抑制薬を例に～」
講師	大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター 教授 中村 任 先生 他

※なお、本セミナーには過去に開催された研修内容「RMPを日常業務に活かそう～抗凝固薬を例に～」と内容が一部重複しますことをご了承ください。

[第5回]

開催日	平成30年11月4日(日) =申込受付中=
研修内容	「がん薬物療法における 口腔粘膜炎・口腔ケアについて考える」
講師	大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター 講師 内田 まよこ 先生 他

[各回共通]

開催時間	10:00~14:30(途中休憩あり)
会場	大阪薬科大学サテライト研修室(三島センター薬局 3階)
受講料	各回 3,000円(昼食代込)
定員	約20名(先着順)
単位	各回 日本薬剤師研修センター2単位(予定) 各回 大阪府薬剤師会5単位(予定)
申込	大阪薬科大学ホームページ(http://www.oups.ac.jp/)の 「サテライトセミナー応募フォーム」からお申し込みください。

■基礎から始める漢方薬入門セミナー

開催日	[第1回] 平成30年7月15日(日)10:00~15:00 [第2回] 平成30年7月22日(日)10:00~15:00
研修内容	[第1回] 「漢方医学の基礎と考え方」 「カゼに用いる漢方薬と治療の考え方」 [第2回] 「気血水のバランスをとる漢方薬」 「五臓に作用する漢方薬」
講師	大阪薬科大学 生薬学研究室 准教授 芝野 真喜雄 先生
会場	大阪薬科大学 サテライト研修室(三島センター薬局 3階)
受講料	各回 3,000円(昼食代込)
定員	約30名(先着順)
単位	各回 日本薬剤師研修センター 2単位(予定) 各回 大阪府薬剤師会 5単位(予定)
申込	大阪薬科大学ホームページ(http://www.oups.ac.jp)の「基礎から始める漢方薬入門セミナー応募フォーム」からお申し込みください。

※第1回、第2回は連続受講がのぞましいです。

■無菌調製実技セミナー

開催日	平成30年9月30日(日)10:00~16:00
講師	大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター 講師 内田 まよこ 先生
会場	大阪薬科大学 D棟2階 模擬無菌調製室
受講料	5,000円(昼食代込)
定員	8名(先着順)
単位	日本薬剤師研修センター 2単位(予定)
申込	大阪薬科大学ホームページ(http://www.oups.ac.jp)の「無菌調製実技セミナー応募フォーム」からお申し込みください。

■薬剤師が実践できる褥瘡治療実技セミナー

開催日	[第1回] 平成30年9月16日(日)10:00~16:00
講師	愛生館小林記念病院 褥瘡ケアセンター センター長 古田 勝経 先生 オレンジ薬局 布施北店 長谷川 雅子 先生
会場	大阪薬科大学 サテライト研修室(三島センター薬局 3階)
受講料	4,000円(昼食代込) ※受講料は、事前振込となります。
定員	30名(先着順)

オープンキャンパス 6/17報告

2018年春のオープンキャンパス(3月21日(水・祝))に続いて、初めて6月に開催したオープンキャンパスは快晴のもと、173組311名の参加者がありました。

「キャンパスツアー」や「在学生による個別相談コーナー」では在学生が活躍しました。参加者にとっては教職員には聞きにくい「生の声」を気軽に聞くことができ、大変好評でした。そのほかに「入試説明会」、「教員による個別相談コーナー」、「体験イベント(模擬実験)」、新たに「ラボツアー(研究室見学ツアー)」などのプログラムを実施し、パンフレットでは伝わらない大阪薬科大学の魅力に触れていただきました。アンケート結果では「キャンパスや実習施設がきれい!」、「食堂のランチが美味しかった」などのコメントをいただき、今後のオープンキャンパスに活かしています。

これからも、オープンキャンパスを通じて本学のPRをしていきたいと考えています。

入試説明会 進路・就職講座



D棟講堂にて、学長からの挨拶の後、入試・進路・就職状況について、説明がありました。

体験イベント(模擬実験)



薬学部の学びが体験できる体験イベント(模擬実験)として「チャレンジ! 投薬設計シミュレーション」を開催しました。

キャンパスツアー



オープンキャンパスの中で一番人気のイベントで、来場者のほとんどが参加します。D棟2階にある模擬調剤室やコンピュータ演習室、図書館などを本学学生が、受験生やご父母をご案内します。学生の話を中心に聴いている姿が印象的でした。

ラボツアー(研究室見学ツアー)



ラボツアー(研究室見学ツアー)では、機能分子創製化学研究室と生体分析学研究室を見学しました。がん細胞の観察、研究機器の説明など、薬学部の研究に触れてもらいました。

■夏のオープンキャンパス2018

8月19日(日)・9月30日(日)に開催します。

プログラム

入試説明会 キャンパスツアー、体験イベント、入試対策講座、教員・在学生による個別相談会(予定)。
学生アルバイトも募集いたします。ぜひ、ご応募ください!



キャリアサポート課だより

平成29年度 進路・就職状況報告と今後の主な予定

平成29年度学部卒業生の進路・就職状況について報告します。本学の学部学生(6年制)の就職・進学状況は今年も堅調に推移しており、就職・進学率は96.0%となりました。平成29年度卒業生のうち進路が決定した308名の内訳としては、企業15.9%、薬局、50.3%、病院25.0%、病院研修生1.6%、公務員(行政職)4.9%、その他(病院研究職)0.3%、進学1.9%でした。

学生の希望進路先傾向は、年度ごとに若干異なりますが、近年は地域医療への貢献やセルフメディケーションといった切り口から薬局志望の学生が増加しており、企業がやや減少、病院と公務員がほぼ横ばい傾向にあります。

平成29年度進路・就職状況

(平成30年5月1日)

業種	人数(名)	割合
企業	49	15.9%
薬局	155	50.3%
病院	77	25.0%
病院研修生	5	1.6%
公務員	15	4.9%
その他	1	0.3%
進学	6	1.9%
	308	100%

就職意思のない6名を除いています。

学内合同説明会について(報告)

進路先の求人や職種に関する情報提供を目的とした学内合同説明会(全学年対象)を以下のとおり開催しました。就活学生は採用担当者から直接に採用情報を得るまたとない機会として、また、低年次の学生は様々な職種を知る機会として多くの学生が参加して大変盛況でした。

- ①平成30年3月3日(土)
企業43社/学生参加者:約160名
- ②平成30年4月5日(木)
病院・薬局・公務員102団体/学生参加者:約420名

平成30年度もキャリアサポート部・課ではみなさん一人ひとりが主体的に進路を選択し実現できるよう現状の就活スケジュールを考慮しながら、対象学年別かつ必要に応じた企画を実施していきます。その中から今夏に企画しているイベントの一部を紹介します。



学内合同説明会(4月5日)

キャリア教育セミナーのお知らせ **重要**

【対象学年】全学生向け(主に5年次生向け)

5年次の第Ⅱ期実務実習直前の時期に薬学出身者が活躍する多様な職種の理解を深めることを目的としたキャリア教育セミナーを以下のとおり実施します。当日は企業、病院、薬局、官公庁よりお招きした演者から現場での経験や仕事のやりがい、働き方、仕事で苦労したこと等についてお話しいただきます。大阪府北部地震により、5年次生以外は定期試験日程と重なってしまいましたが、参加可能な方は自身の進路選択の一助として積極的に参加しましょう。

【開催日時】平成30年7月30日(月)と8月3日(金)の両日

※両日とも1コマ目 13:00~13:45

2コマ目 14:00~14:45

3コマ目 15:00~15:45

関連講座

7月31日(火)には日本病院薬剤師会から講師をお招きし、病院薬剤師としての一般的な働き方や心構え等についてお話しいただきます。

キャリアサポート課からのお知らせ

キャリアサポート課からのガイダンス開催案内は主に学生ポータルサイトからのメール通知やキャリアサポート課前掲示板にて告知しています。実施案内を見逃すことなく確認し、学業に差し障りのない範囲で参加しましょう。

また、過去のガイダンス動画の視聴やガイダンス日程を確認できる「キャリアサポートチャンネル(本学学生対象)」も活用してください。ログインにはIDが必要です。IDは4月に学生ポータルサイトより通知していますが、利用方法等含めて不明な方はキャリアサポート課へ問い合わせしてください。



クラブ紹介

大阪薬科大学ダンス部 vivid bullet



大阪薬科大学ダンス部vivid bulletは、ずっとダンスサークルとして活動して参りましたが、部活としては11年目を迎えるようとしております。

普段の活動は、毎週月曜日と金曜日の16時20分～19時に3コマ編成で進めています。年5回行われる大学内のダンスショーケースイベントにむけて日々練習しており、現在JAZZ、LOCK、HIPHOP、Waack、POP、K-POP、STYLEの7ジャンルで活動しています。加えて、他大学の学園祭やイベントにも参加しており、希望者は他の医療系の大学の方ともチームを組めるため、医学部の方や看護学部の方とも深く交流でき、普段聞けないような他医療学部のお話を聞けたりもします。

去る5月11日(金)には、五月祭で新入生の前でダンスを披露させていただきました。

オープニングではテレビコマーシャルで使用されている「三太郎auダンス」をカバーし、楽しく踊ることが出来ました。K-POP、Waack、LOCK、HIPHOP、STYLE、POP、ラストはJAZZ。この日に披露させていただいたものは、4月に行ったショーケースイベントと同じですが、どのジャンルも個人的にも全体的にも完成度が上がっていたように思えます。

五月祭後は新入生が21名入部しました。現在1～3年生で総勢65名で只今活動を行っています。6月15日(金)に大阪薬科大学の学生会館にて開催した6月ホール発表では、1年生初の発表となりました。どのジャンルも難しい動きも多い中しっかり練習の成果が見えました。「それでも初心者にとってダンスは難しいのではないか」と思う方が多いと思いますが、ほとんどの部員がダンスを大学生になってから始めたダンス初心者です。始めは慣れない動きが多く、苦戦することが多いので挫折を味わうときもありますが、練習を積み重ね

ていくうちに動き方のコツを掴み、踊れるようになれば更に音楽に乗っていく楽しさがわかり、それが踊ること自体の楽しさに繋がります。更にダンスでわからないところがあれば、先輩が優しく教えてくれます。

普段の部活の雰囲気は、楽しく賑やかです。また、縦の繋がりを作る機会が沢山あるので先輩と後輩がすごく仲が良いことがダンス部の特徴です。

例えば、長期休暇中の旅行です。これまで三重県の伊勢の海に行ったり、大阪府の舞洲に行きました。今年は、長期休暇中8月6日～8月7日に岡山県にて夏旅行を行います。

今後のダンス部の予定ですが、大葉祭にてダンスの発表を行います。それに向けて練習をして参りますので興味がある方はお気軽に見学なさってください。



クローズアップ YAKUDAI



What is today's lunch?

午後からの授業、実習、クラブ活動へのパワーの源のお昼ごはん。
入学から3ヶ月経った1年次生のお昼ご飯事情を探ってみました。



■1年次生 畠山 友花 さん
「お母さんのお弁当」

いただきます!

3限は休講で空き時間になりました。
4限5限は講義があるので、
空き時間に試験勉強を頑張ります。



■1年次生 北 翼 さん
「自家製おにぎり」



■1年次生 平 将大 さん
「お母さんのお弁当」



みんなでワイワイしながら
食べるとなご一層おいしい!

周りを見渡したら、
自家製のお弁当率が
結構高かったよ!



人事

退職(平成30年3月31日付)

教授 天野 富美夫(定年)
教授 辻坊 裕(定年)
教授(嘱託) 田中 麗子
教授(特任:再雇用) 長谷川 健次
教授(特任) 脇條 康哲(定年)
図書・情報課課長補佐 吉田 弘子(定年)

退職(平成30年6月30日付)

健康管理支援室長 辻 悦子

採用(平成30年4月1日付)

教授(特任) 神林 祐子
教授(特任) 和田 恭一
准教授 長谷井 友尋
助教 倉田 里穂
助教 前原 都有子
助教(特任) 金井 泰和
特任研究員 越智 洋輔
特任研究員 Higor Alves Iha
特任研究員 Srivastava Anirudh

採用(平成30年5月1日付)

事務職員 教務課配属 小川 徹
事務職員 総務課配属 小嶋 岳

再雇用(平成30年4月1日付)

教授(特任) 脇條 康哲

昇任(平成30年4月1日付)

教授 スミス 朋子
教授 阪本 恭子
教授 宮崎 誠
准教授 加藤 隆児
准教授 門田 和紀
助教 庄司 雅紀
助教 加藤 巧馬
総務課課長補佐 藤原 昭男
経理課課長補佐 小牧 優
図書・情報課課長補佐 清水 信行
総務課課長補佐 垣貫 健

配置換え(平成30年6月1日付)

教務課課長補佐から
キャリアサポート課課長補佐 讚木 眞理子
総務課課長補佐から入試課課長補佐 藤原 昭男
経理課課長補佐から総務課課長補佐 小牧 優
入試課係長から経理課係長 福榎 敬二

出向(平成30年6月1日付)

三島薬学教育センターへ出向
総務課課長補佐 小牧 優

大阪医科大学との人事交流

(平成30年4月1日付)
大阪医科大学附属病院看護部から
大阪薬科大学健康管理支援室へ異動
保健師 重里 真季

併任(平成30年1月18日付)

大学院博士前期課程担当教員 田中 智(助教)
大学院博士前期課程担当教員 近藤 直哉(助教)

併任(平成30年4月1日付)

キャリアサポート部長 福永 理己郎(教授)
大学院博士後期課程・博士課程指導教員 長谷井 友尋(准教授)
大学院博士前期課程担当教員 倉田 里穂(助教)
大学院博士後期課程・博士課程指導教員 加藤 隆児(准教授)
大学院博士後期課程・博士課程指導教員 門田 和紀(准教授)

併任(平成30年4月9日付)

大学院博士前期課程担当教員 庄司 雅紀(助教)
大学院博士前期課程担当教員 加藤 巧馬(助教)

兼務(平成30年6月1日付)

広報室 藤原 昭男(入試課課長補佐)

兼務を解く(平成30年5月31日付)

広報室 福榎 敬二(入試課係長)

委嘱(平成30年4月1日付)

広報室長 藤本 陽子(教授)
研究委員長 大野 行弘(教授)
薬剤師国家試験対策委員長 岩永 一範(教授)
校医及び産業医 柚木 孝仁(非常勤)
学生相談室顧問 米田 博(非常勤)
学生相談室相談員 小田 佳子(非常勤)
学生相談室相談員 西田 裕子(非常勤)
学生相談室相談員 若林 暁子(非常勤)

委嘱(平成30年5月1日付)

広報室長 秋月 延夫(事務局長)

委嘱を解く(平成30年3月31日付)

広報室長 辻坊 裕(教授)

委嘱を解く(平成30年4月30日付)

広報室長 藤本 陽子(教授)

招へい教授(平成30年3月1日付)

上里 新一

招へい教授(平成30年4月1日付)

田伏 克惇

橋田 亨

野口 正弘

招へい教授(平成30年5月1日付)

中張 隆司

客員研究員(平成30年2月1日付)

吉田 祥

客員研究員(平成30年3月1日付)

上里 新一

客員研究員(平成30年4月1日付)

藤田 芳一

松島 哲久

田伏 克惇

橋田 亨

金星 匡人

田中 麗子

客員研究員(平成30年5月1日付)

中張 隆司

立石 陽子

田和 正志

客員研究員(平成30年6月1日付)

内藤 雅人

客員研究員(平成30年7月1日付)

森 龍彦

客員講師(平成30年8月1日付)

村上 能庸

慶弔

叙勲

旭日双光章(平成30年4月29日付)
常風 潤一(学校法人大阪医科薬科大学評議員、旧学校法人大阪薬科大学理事・評議員)
小田 早苗(旧学校法人大阪薬科大学評議員)



新任挨拶

臨床実践薬学教育研究室 教授(特任) 神林 祐子



私は、大学卒業後、この3月末に京都市立医科大学附属病院を退職するまで病院薬剤師一筋で勤めて参りました。薬剤師の業務は臨床に大きくシフトし、私も臨床業務(がん・緩和ケア領域)に携わり、チーム医療の実践および臨床薬学研究の推進に努めて参りました。本学での薬学教育においては、臨床薬剤師業務および臨床薬学研究の素晴らしさも伝えていきたいと思ひます。精一杯努めて参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

臨床実践薬学教育研究室 教授(特任) 和田 恭一



平成30年4月1日付けで大阪薬科大学臨床実践薬学教育研究室教授(特任)に就任いたしました。私は、昭和57年に京都薬科大学を卒業後、大阪大学附属病院薬剤部研修生を経て、国立病院で35年間勤務いたしました。最後に勤務した国立循環器病研究センターでは、重症心不全病棟の病棟薬剤師をしており、補助人工心臓装着患者さんや心臓移植後患者さんの薬剤管理指導を行って参りました。病院薬剤師として長い間勤務した中で、薬の効果を最大限に発揮するためには薬剤師の力が必須であると実感いたしました。本学では、教育と臨床を近づけ、多方面で薬剤師の力を最大限に発揮できる人材を育成していきたいと考えて参ります。

薬学教育研究センター 准教授 長谷井 友尋



本年4月1日付けで薬学教育研究センターに着任いたしました長谷井友尋と申します。私は平成14年に京都薬科大学を卒業し、同大学大学院博士前期課程を修了いたしました。その後、同大学にて博士(薬学)の学位を取得し、公衆衛生学分野の講師として勤務して参りました。その間一貫して衛生領域の教育・研究に携わってまいりました。歴史ある本学の教育・研究の発展に貢献できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

薬学教育研究センター 助教 倉田 里穂



このたび、平成30年4月1日付けで薬学教育研究センターに助教として着任いたしました倉田里穂と申します。専門は免疫学で、膠原病における炎症メカニズムについて研究して参りました。教育においては、コーチングを学んで参りました。学生の皆さんに「気づきと行動」を促し、目標達成を支援したいと考えています。これらの社会に求められる薬剤師育成に尽力する所存でございますので、指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

病態生化学研究室 助教 前原 都有子



この度、平成30年4月1日付けで病態生化学研究室の助教として就任いたしました前原都有子です。私はこの3月に東京大学大学院博士課程を修了し、これまで獣医学を専攻して参りました。薬学部に所属するのは初めてですが、微力ながら本学の発展に寄与できるよう日々精進していく所存です。皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

生体分析学研究室 助教(特任) 金井 泰和



皆さん、初めまして。この4月より生体分析学研究室に着任しました。私は2001年に本学を卒業後、放射薬品学教室で修士課程を修了しました。当時の指導教官である大桃先生、平田先生も在職しており、新任ではありますが故郷に戻ってきた気分です。勤務地は大阪医科大学の関西BNCT共同医療センターで、PET薬剤の製造、品質管理、新規薬剤開発を担当しております。BNCTやPETは皆様あまり馴染みがないかもしれませんが、お近くにお越しの際はぜひ見学にいらしてください。

教務課 事務職員 小川 徹



この度、平成30年5月1日付けで大阪薬科大学教務課に配属となりました小川徹と申します。前職では化学メーカーで製品開発の職に就いており、人々の快適な生活に貢献できるような外構製品の開発に携わって参りました。そこで培った経験や能力を活かし、どうすれば教職員や学生の皆様の学校生活がより快適になるのかを常に意識しながら考動し、努めて参ります。何卒よろしくお願い申し上げます。

総務課 事務職員 小嶋 岳



この度、平成30年5月1日付けで総務課に配属となりました、小嶋岳と申します。前職では、損害保険会社に在籍しており、自動車ディーラー等の代理店を通じて自動車保険の販売を行う営業をして参りました。大学という職場、総務という仕事は全くの未経験分野で不安も大きいですが、常に全力投球で大阪薬科大学の発展に寄与してまいりたいと思ひます。精一杯頑張り参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

健康管理支援室 保健師 重里 真季



4月より健康管理支援室に保健師として着任いたしました、重里真季です。大阪医科大学附属病院に3年間看護師として勤務した後、産休・育休を経て、復帰と同時にこちらに出向となりました。病院業務とのギャップに戸惑い不安もありますが、まずは、健康相談のしやすい温かく身近な存在となれるよう心がけたいと思ひます。皆さんの健康維持・増進に少しでも貢献できるように努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

■トイレの改修工事

平成30年3月にC棟1・2階トイレの改修工事を行いました。また、残りの3・4階についても、改修工事を予定しています。今後も学生が利用しやすい快適な環境づくりを推進していきます。



■第6回大阪薬科大学学術講演会in東京を開催

大阪薬科大学と大阪薬科大学同窓会の共催により、「第6回大阪薬科大学学術講演会in東京」を開催しました。東京近郊で活躍されている本学同窓生や本学関係者に多数ご参加いただき、大変活発で有意義な講演会となりました。また、講演後には、演者、座長、参加者を交えた懇親会を開催し、和やかな雰囲気の中、無事終了することができました。

開催日	平成30年2月18日(日) 14:00~17:00
場所	第一ホテル東京
主催	大阪薬科大学、大阪薬科大学同窓会
後援	公益社団法人日本薬剤師会
内容	特別講演(14:30~15:30) 「生体分子イメージングに基づく医工薬連携研究の推進」 大阪薬科大学薬学部 教授 天満 敬 氏 招待講演(15:30~16:30) 「いよいよ始まる改訂コアカリに基づく実務実習の進め方」 慶應義塾大学病院薬剤部長 望月 眞弓 氏



講演会風景



懇親会風景

■高槻市主催「けやきの森市民大学」へ講座提供

平成30年2月24日(土)、3月3日(土)、3月10日(土)の3日間、高槻市主催にて開催された「けやきの森市民大学」に対し、本学から「大阪薬科大学公開講座」として講座提供しました。「くすりの作り方、効き方、使い方」をテーマとした講義を中村任教授より行い、各回43名の参加がありました。

■退職記念講義を開催

平成29年度で退職された辻坊裕教授(微生物学研究室)、田中麗子教授(医薬品化学研究室)の退職記念講義を平成30年3月22日(木)に開催しました。

講義の後に、研究室の学生から花束の贈呈があり、和やかな退職記念講義となりました。

辻坊裕教授演題「大阪薬大との巡り合わせ～学生から教員まで～」
田中麗子教授演題「テルペノイドの研究と教育と徒然ごと」



■本学の社会貢献活動 一市民講座委員会からの実施報告及び今後の開催案内

実施報告

第45回市民講座を、以下の通り開催しました。

開催日	平成30年5月19日(土) 13:00~16:10
テーマ	脳卒中を学ぼう～予防と治療～
演題 講師	(1)「脳卒中治療 最前線～脳外科医の取り組み～」 社会医療法人ベガサス馬場記念病院 脳神経外科 医長 前田 一史 先生 (2)「脳卒中予防における『食事の工夫』」 龍谷大学 農学部 准教授 岩川 裕美 先生
会場	大阪薬科大学 C105講義室



開催案内

高槻市社会貢献事業として、夏休み子ども大学を以下の通り開催します。

開催日	平成30年8月4日(土) 9:00~12:00
テーマ	薬剤師さんに変身！～子ども薬剤師体験～
講師	大阪薬科大学 臨床実践薬学研究室 教授 荒川 行生 大阪薬科大学 製剤設計学研究室 教授 戸塚 裕一 大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター 教授 岩永 一範 大阪薬科大学 臨床実践薬学教育研究室 教授(特任) 金 美恵子 大阪薬科大学 循環病態治療学研究室 准教授 加藤 隆児 大阪薬科大学 三大学医工薬連環科学教育研究機構 准教授(特任) 銭田 晃一 大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター 講師 内田 まよこ
会場	大阪薬科大学 D棟2階模擬調剤室等

第46回市民講座を、以下の通り開催します。

開催日	平成30年9月15日(土) 13:00~16:10
テーマ	肺を健やかに ～肺の病気と健康づくり～
演題 講師	(1)「誤嚥性肺炎を防ぐ～予備軍の間のできること～」 兵庫県立尼崎総合医療センター 呼吸器内科部長 遠藤 和夫 先生 (2)「薬局が起点となる予防医療と生活支援」 株式会社 グリーンメディック 代表取締役 多田 耕三 先生
会場	大阪薬科大学 C105講義室

■退職記念パーティーを開催

平成29年度で退職された教職員の退職記念パーティーを平成30年3月22日(木)大学会館の食堂にて開催しました。

濱岡純治副理事長、政田幹夫学長をはじめ多数の教職員が出席し、退職される先生の新しい門出を祝いました。長きにわたり本学の発展に寄与された皆さまのご功績に、教職員一同、心より敬意を表しますとともに、改めてお礼を申し上げます。

【退職された教職員】

天野富美夫教授(生体防御学研究室)
辻坊裕教授(微生物学研究室)
田中麗子教授(医薬品化学研究室)
長谷川健次教授(特任)
(臨床実践薬学教育研究室)
吉田弘子課長補佐(図書・情報課)



■平成29年度学位記授与式を挙行

平成29年度大阪薬科大学学位記授与式を、平成30年3月10日(土)午前10時30分より本学体育館にて挙行いたしました。学部卒業生324名、大学院修了生3名が新たな一歩を踏み出しました。



■平成30年度入学式を挙行

平成30年度大阪薬科大学入学式を、平成30年4月3日(火)午前10時より本学体育館にて挙行いたしました。

夢や希望を抱いた新生が、大学生としての第一歩を踏み出しました。開式の辞の後、政田幹夫学長から専門的な分野の学識を深めると同時に、幅広い教養を生涯にわたって培っていくことの大切さ、ならびに薬学教育の自覚を促すための説明があり、新入生を激励しました。



■中学生の職場体験学習

地域連携教育の一環として平成29年10月26日(木)~27日(金)の間、本学図書館において、高槻市立阿武山中学校の生徒2名の職場体験学習を行いました。この2日間で図書館職員と一緒に図書館業務を行い、書架整理、貸出返却作業、除籍作業、カウンター業務等、終日笑顔で誠実に対応していただきました。中学生が作成したPOPによる図書紹介コーナーを設けるなど、様々な業務を体験して、仕事の楽しさや達成感が得られたようでした。



■メディアへの掲載・放送等(平成29年12月~)

掲載・放送日	掲載・放送内容	掲載・放送媒体	取材対応者・出演者・掲載者
平成30年1月	薬剤師の臨床マインドとプロフェッショナルとしての気概を持って	(株)医薬ジャーナル社「医薬ジャーナル」	大阪薬科大学長 政田 幹夫

※大阪薬科大学広報規程第6条により、報道機関による取材に応じた場合は、総務課へご連絡ください。

フロムLibrary

「遊び心をエッセンス」

図書館へ足を運んで勉強に勤しんでいる学生を見ていると、「毎日大変だなあ」と思ってしまう。そんな皆さんの気持ちがほんの少しでも和めばよいなあという考えから、図書館ではちょっとした遊び心を取り入れています。

- 例えば…▶図書館入り口には「いけばな」を
- ▶貸出しのしおりには「だいやくん」を
- ▶窓ガラスには「季節のディスプレイ」を

今後も皆さんに楽しんでもらえるような企画を進めて行く予定

です。「こんなことをしてほしい」といった要望があれば、図書・情報課までお寄せください。

「多目的共有スペースの設置を計画中」

予習やレポート作成の増加、グループでの学習の増加など、授業形態は様変わりして来ています。それに対応した場の提供として、ラーニング commons の要素も兼ね備えた多目的に利用できる共有スペースの設置を計画中です。今年度中にはお目見えするかも!? 乞うご期待!

※地震の影響により、第4閲覧室及び資料展示室を一時的に閉鎖中です。



こちら広報室

■阿武山 四季折々「春」

自然に恵まれた環境は、大阪薬科大学の特長の1つです。

緑豊かな阿武山に抱かれたキャンパスでは、四季の移り変わりを実感しながら勉学に励むことができます。

バス停から正門へ向かう桜並木。今年は3月27日に桜が満開となりました。



■地震と豪雨

平成30年6月18日(月)午前7時58分、大阪府北部を震源とする大規模な地震が発生しました。

また、6月下旬から7月上旬にかけては、西日本を中心に未曾有の豪雨災害に見舞われました。

これらの災害により、犠牲になられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

大阪府北部地震では、震源地である高槻市に位置する本学も被害を受けました。大学は直ちに災害対策本部を立ち上げ、種々対応に当たりましたが、建物への被害により当日から7月1日(日)の

間、授業・実習を休講とし、大学への立ち入りも禁止としました。安全を確保しながら復旧作業に努めた結果、予定どおり7月2日(月)に授業を再開することができましたが、その週末には豪雨の影響により、再び休講を余儀なくされました。

今回の災害で私たちは身をもって自然災害の恐ろしさを痛感することとなりました。いつどこにやってくるかわからない災害を避けて通ることは困難ですが、日頃から備えによって被害を少しでも減らすことは可能です。

大学でも今回の被災によって浮き彫りとなった課題を重く受け止め、防災意識を高めて参りたいと思います。

大阪北部地震による被害状況について

■A棟

- ・図書館書架より書籍落下数千冊
- ・図書館壁面等にクラック多数

■B棟

- ・研究室配管破損多数

■C棟

- ・実験室配管破損による漏水

■D棟

- ・屋上電気変圧器破損
- ・講義室、実習室天井全熱交換機破損多数
- ・講堂吊り天井一部破損

■体育館

- ・アリーナ吊天井一部破損

■クラブハウス

- ・廊下壁面等にクラック多数

編集後記

このたびの地震と豪雨の影響で、本学も休講を余儀なくされ、授業・実習日程を大幅に変更することとなり、日程調整等で事務局も慌ただしい日々を送りました。そのような中で学報編集作業にも少なからず影響があり、学報発行が遅れてしまいましたことを深くお詫び申し上げます。

それにしても、今年の日本は本当にどうしたことでしょう。地震に豪雨そして猛暑、さらには逆走する台風。自然の力の前では人間は本当に無力なんだと思わざると得ません。しかし、この世の中で生きていくためには、そんな災害にも立ち向かって行かねばなりません。

以前、某大学が食堂に「ぼっち席」を設置したという記事を目にしたことがありました。「おひとりさま」といったワードが流行し、一人カラオケや一人焼き肉のお店もある世の中ですから、そういった時代なんだなあとあまり気にも留めませんでした。

一人は気楽だというその気持ちも十分に理解できますし、大学生ともなると選択科目の関係で友達と一緒に行動できないという人もいます。中には人付き合いが苦手な自ら

周りの世界と遮断している人もいるかも知れません。

しかし、前述したように、私たちは災害に立ち向かって行かねばなりません。今回のような地震や未曾有の豪雨にいざ見舞われた時、一人では何もできません。

日頃から防災意識を持つことはもちろん大事ですが、普段から人と人のつながりを大事にしておくことはもっと重要です。人と人とのつながりは、いざという時には大きな力となってくれるはずです。それは災害の時だけではなく、自分がピンチに立たされた時にも力を貸してくれます。

現在、大阪薬科大学には1,956名の学生が在籍しています(2018年5月1日現在)。1,956個の個性の宝庫です。さらには約150名の教職員がいます。自分とは違った個性と大いに向き合い、いざというときに力になってくれる先生や友達との人脈を築いて社会に出てください。

そして、そんな個性の宝庫である学生の皆さんにお願いがあります。学生ならではの発想でアイデアを提供してください。学報にこんな企画があればよいのでは?グッズはこんなものがいいな…等、忌憚なき声をどんどん聞かせてください。

(図書・情報課長 三角 智津)



ご意見・ご要望等連絡先メールアドレス

✉ kouhou@gly.oups.ac.jp メールタイトルに「学報」と明記してください。



ヒロハセネガ (ヒメハギ科)

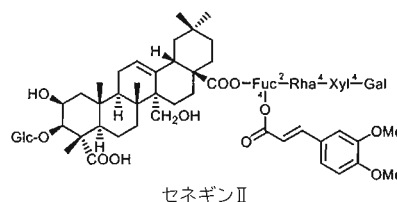
Polygala senega Linné var. *latifolia* Torrey et Gray薬用植物園長 教授 谷口 雅彦
薬用植物園 技術職員 忍穂 陽介

北アメリカ原産の多年性草本類で、原産地では日当たりの良い河川や明るい林床などを好み自生する。日本では、3月から4月頃に芽吹き、草丈は大きいもので30cmほどになり、秋になると地上部は枯れ、根だけが残る。花は5月から10月に茎の上部に総状に3mmほどの白色の蝶型に咲かせる。栽培地は寒冷地が適切であるとされるが、北海道から九州まで生育はできる。当園でも比較的栽培の簡単な方で、西日を直接当てないようにだけ配慮をすると、あまり手をかけなくても毎年、花や果実をつけてくれる。

日本へは明治時代に薬用として、渡ってきた。生薬とされる薬用植物の多くは中国原産や東アジア原産の物が多いが、北アメリカ原産の物は珍しい。当初は少量輸入されたが、昭和30年ごろに国内でも良質なセネガ根が生産できるようになり、現在でも兵庫県の間部や北海道などの冷涼な土地で栽培され、国産品だけで生薬が賄われ、海外に輸出もされている。

名前の由来は、北アメリカ北東部のインディアン部族の1つであるセネカ族が民間薬として利用していたことから名づけられている。利用方法はガラガラヘビの解毒薬として根を利用していた。

そのため英語でも *senega sunake root* と呼ばれている。しかし、蛇毒の解毒作用については、科学的根拠は見つかっていない。去痰薬としての利用は、18世紀にスコットランド人医師の John Tennent により去痰作用が見いだされ、ヨーロッパに紹介され広まった。



主要成分として、トリテルペンサポニンのセネギンII, III(オンジサポニンB)、精油のメチルサリチル酸などを含有している。

薬用部位は根で、去痰薬としての配合剤やセネガシロップの原料とされている。西洋生薬なので漢方薬に配合されていない。



参考 「薬草カラー図鑑」(主婦の友社)
「原色日本薬用植物図鑑」(保育社)
「第十七改正日本薬局方解説書」(廣川書店)
「生薬単」(丸善雄松堂)

主な後期行事予定

平成30年		
9月	14(金)	後期授業開始
	18(火)	防災訓練
11月	3(土)・4(日)	第53回大薬祭
	11(日)	平成31年度指定校制推薦入学試験・公募制推薦入学試験・帰国生徒特別選抜入学試験
12月	11(火)・12(水)	CBT本試験
	22(土)	OSCE本試験
平成31年		
1月	19(土)・20(日)	平成31年度大学入試センター試験
2月	1(金)	平成31年度一般入学試験A
	9(土)	平成31年度一般入学試験B
	15(金)	白衣授与式、実務実習伝達・報告会
	23(土)・24(日)	第104回薬剤師国家試験 ※現時点では未確定
3月	9(土)	平成30年度学部および大学院学位記授与式

大阪薬科大学公式Twitterを開始しました!

大阪薬科大学では、Twitter(ツイッター)を使用した情報発信を開始しました。Twitterをご利用の方は、ぜひ「フォロー」をお願いいたします。
大阪薬科大学公式Twitter (アカウント名:@OUPS_PR)